

特別寄稿

空手団体組手での
インターハイ出場を目指し

秋工空手道部監督
三井 義孝



私が空手道部の顧問になったのは、平成4年です。当時、監督をされていた佐川先生が定年退職間近ということもあり、顧問にならないかと声をかけていただきました。私自身は空手道の経験が全くなかったため、不安はありましたが、せっかくのお話でもあり、引き受けることにしました。

この時には、空手道競技は全国高校総体(インターハイ)の正式種目になっていました。空手道の場合、男女別に、団体組手、個人組手、個人形の合計6種目があり、各種目の上位がインターハイに出場できます。私が空手道部の顧問になった平成4年は、男女個人形競技においてそれぞれ優勝し、インターハイに出場しました。この時、監督の佐川先生から「今後のためにインターハイを見てこい」と言われ、宮崎県で開催されたインターハイに生徒を引率して行きました。初めて見るインターハイは、全てにおいて圧倒されましたが、団体組手の盛り上がりは特に印象に残りました。この時から、必ず団体組手でインターハイに出場し、全国でも勝ち上がりたいという目標が出来ました。とは言え、自分自身は空手道経験者ではないため、県内外の空手道部の先生方から勉強させていただき、今では技術指導も行っております。

団体組手でインターハイに出場するという目標は簡単には達成できず、あと一歩ということが幾度となくあり、その度に悔しい思いをしてきました。また、公立高校には異動がつきもので、5年ほど秋工空手道部から離れた時期もありました。それでも諦めず目標を追い続け、ついに平成20年に女子団体組手で念願のインターハイ出場を勝ち取ることができました。OBの方々からすると、秋工に女子?と思われるかもしれませんが、近年は各学年に30名ほど、全校では100名近い女子生徒が在籍しております。

また、男子団体組手は、平成24年にインターハイ出場を果たすことができました。

改元が決まり、平成最後の年になった、平成30年には初の男女アベックでインターハイ出場を果たしました。インターハイ出場を決める秋田県予選の決勝は、男女ともに大将戦までもつれる競った試合でしたが、女子は僅か1ポイント差で、男子も3ポイント差で勝ちきることができました。また、女子団体組手はインターハイでも勝ち上がり、過去最高の成績であるベスト16入りを達成しました。



H30県予選



H30年インターハイ 男子団体組手

元号が平成から令和に変わる今年、令和になって最初のインターハイ出場を男女で狙っていきたいと思いますので、応援をよろしくお願いします。

最後に、来年開催される東京オリンピックでは、空手道競技が実施されますが、1人でも多くの方に空手道競技を知ってもらいたいと思います。



宝石・貴金属 専門店



伊藤貴金属店

TEL 018-862-2761

FAX 018-864-8612

代表取締役 赤塚 京二 (昭和40年土木科卒)